



▲コロポックルの森保護者会による『アイスクャンドルフェスタ』



▲もちつき会



▲保育・教育の様子



▲第1回大運動会

友だちが増えたと喜んでいきます

「コロポックルの森がオープンしてから、子どもは友だちが増えたと喜んでいきます」と話すのは、お子さんを登別保育所に通所させている金澤徹さん。



金澤 徹さん

幼保一元化モデル事業が始まった直後、金澤さんには不安がありました。

「市で運営していたときと比べ、保育所には、わたしよりも若い先生が多くなり、最初は不安でした。でも、先生方が一生懸命に子どもたちと接している姿を見ているうちに不安はなくなり、今は先生方への感謝の気持ちでいっぱいです」
施設では、保育所児・幼稚園児の混合クラスを年齢別に編成しているほか、運動会や発表会の合同開催、3歳児以上の合同給食などを行っています。

「子どもたちには、人数が増え、より一層にぎやかになった集団生活の中で、勉強や遊びなどをどんどんやって、たくさん友だちをつ

くってほしいです。そして、大人になっても、幼いころの楽しい思い出を忘れないでほしいですね」と金澤さんは、子どもたちをあたたく見守っています。

保護者会の活動を地域の皆さんにも広げたい

「これまで保育所には、幼稚園と異なり、保護者会はありませんでした。今回の幼保一元化モデル事業をきっかけに、より多くの保護者の方がたと交流したいという気持ちもあり、登別保育所に子どもを通所させている保護者の皆さんに呼び掛けたところ、全員の加入をいただき、『コロポックルの森保護者会』を発足させることができました」と話すのは、お子さんを白雪幼稚園に通園させている同会会長の大宮一哉さん。



大宮 一哉さん

保護者会では、初めての取り組みとして、2月14日から21日まで『アイスクャンドルフェスタ』を行いました。

「10日前から始まった約230個のアイスクャンドル作りには、延べ

100人以上の保護者の方が参加してくれました。施設の前に飾られたアイスクャンドルの明かりは、とても幻想的。子どもたちも大喜びで、わたしたちも子どもたちの笑顔を見て、うれしくなりました」と大宮さんは、取り組みを振り返ります。

大宮さんに今後の活動の抱負などを尋ねると、「6月にも催しを計画していますが、保護者だけではなく、町内会や小・中学校など、地域の皆さんにも活動の輪を広げていけたらと思っています。そして、地域の皆さんにも、子どもたちをあたたく見守っていてほしいですね」と話してくれました。

保護者のニーズに合った保育や教育を

少子化が進む現在、『さまざまな体験を多くの子どもたちと一緒に』という場が、この幼保一元化モデル事業です。

また、施設内には、市の『登別子育て支援センター』もあり、育児の悩みなどを気軽に相談できるほか、子どもを遊ばせたりすることができ空間となっていて、親子とも楽しめます。

子育てに絶対はありません。保護者のニーズに合った保育や教育を行うこの幼保一元化総合施設をみんなで活用していきましょう。